

# 健康と光線

## 更年期の本態

人の生涯の節目には、プログラムされたスケジュールどおりに起こることがあります。あどけない女の子が、“私は女性”と言いつけるのは十二、三歳を過ぎてからだと思いますが、その節目になるのは初潮でしょう。他方、四十歳代後半から五十歳代前半にかけて女性ホルモンの分泌量は徐々に減少し閉経を迎えます。この時期が更年期で、このプロセスは健全な女性では必ずスケジュールどおりに運ばれます。

ところで更年期に、精神状態が不安定になったり、のぼせ、熱感、めまい、耳鳴り、冷え性、肩凝り、多汗、偏頭痛、動悸、胃腸障害、膈炎、抑鬱、不安感など、いわゆる更年期障害のためにひどく苦しめる方がいます。個人差はありますが、このような多彩な全身症状を呈するのは、自律神経機能と密接に関連しているホルモンの平衡状態のバランスが失われたため、自

律神経機能の失調を起こすからです。しかし自律神経機能は漸次新しい環境に馴染み平衡状態を回復しますので、これらの症状は自然に消失します。

そんなこともあってか、学生時代に老教授から更年期とは台風みたいなもの、と教わりました。いまにして思えば老教授の実験が言わしめたものかも知れませんが、当たり散らされても頭を低くして決して逆らってはいけない、といわれたことを覚えています。

## 女性ホルモン補充療法

更年期障害は台風のようなもので必ず治る、といっても、出るなら苦しみをから逃れたいと思うのは無理からぬことです。その本態は前述したように女性ホルモンの減少ですので、これを補う女性ホルモン補充療法で良くなる、といわれると、人は老いるというのを忘れて、症状をなくす道を選びたくなるのは人情です。見方によっては、生理的に減少した女性ホルモンを

補って、老ける

ことなく永遠の女性でいられるのですから、薬を使うことが大好きな医師と薬を貰うことが大好きな患者の間では結構喜ばれているようです。しかしこの療法には、性器出血、帯下増加、乳腺腫脹などだけでなく、子宮内膜ガンや血栓症に罹病する頻度を増すという副作用があります。それ故、我慢すれば何れ終わる症状をとるために、重い副作用を起す恐れのある女性ホルモンを使うのは得策でない、と反対する医師もいます。

ところが最近、女性ホルモン補充療法は更年期の不定愁訴を治すというようなちゃんなものではなく、骨粗鬆症を治療する

発行所

〒153  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322

## 更年期と骨粗鬆症

— 女性ホルモン補充療法の是非 —

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

という大義名分をひけらかして市民権を主張するようになりまして。その上、薬の使い方も上手くなり副作用も大幅に減ったと病院によっては更年期外来まで設けて熱心に勧誘しています。が、治療を中止したときの急激な骨量減少が最大の未解決な問題点として残っています。

何はともあれ薬を使いたい医師は効果を強調し、薬を使わせたくない医師は副作用を強調する傾向がありますが、この治療がよいとすぐめで悪影響を考える必要は毛頭ない、と断定するのは無理があると考えています。

## 骨粗鬆症を防ぐ要諦

骨粗鬆症が更年期に多少とも進むことは医学的に実証されていますので、女性ホルモン補充療法は科学的かつ合理的な治療法である、と支持派は主張します。しかし病気でもないのにこんな不自然な治療をしなければならぬほど人の骨が脆いはず

はありません。老いても丈夫な骨を保つためには、女性ホルモンの摂理に従うべきです。それには、(1)年間を通してビタミンDを確保するため光線を浴びること(冬が大切)。

光線の大恩を忘れるようなら、骨がぼろぼろになっても当たり前と心得よ。  
(2)カルシウムを出来るだけ摂取すること。

飽食の時代とやらでダイエットばかりだが、カルシウムは忘れずに摂る。

(3)適度な運動を続けること。バス停の一つ二つは歩き、電車で目の色を覚えて席をとらない(長距離は除く)。

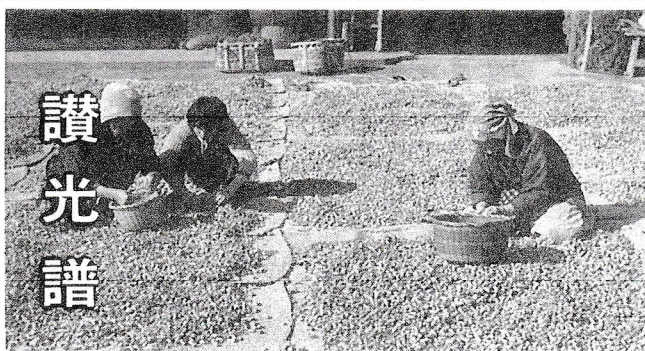
この三条件が不可欠で、すべてに優先します。更年期障害が特にひどかった人でも更年期を越えれば元気になるように、骨粗鬆症の進行にもブレーキがかかりますが、ここまでの骨の粗鬆化は三条件を守りたいとしたことはありません。問題は七十歳を過ぎる頃から生理的に三条件を満たすことが難しくなり、再び骨粗鬆症が急速に進行し、これが寝たきりにつながる骨折を起こす真の原因になるのです。これを防ぐには三条件を満たす努力を最大限にするしかありませんが、これがこそが自然の理にも適うのです。





秋の庭先

宇都宮義真撮影



## 現代の恐怖・ガン

原因がはっきりせず、確実な治療法もなく、静かにやって来て、人の命を奪うガンに人々が恐れおののくのは無理もない。

日本癌学会初代会長の長与又郎氏、ガンセンター初代総長の田宮猛雄氏、癌研究所所長の田崎勇三氏、国立予防衛生研究所所長の小島三郎氏など、わが国の錚々たるガンの権威者もガンで死亡した。未だにガン治療の壁はそれほどまでに厚いのである。

現在、ガンの主な治療法は、手術療法、放射線療法、化学療法の三つに大別される。これらの治療法の中でよく知られていないのが手術療法であり、転移のない時点で見つかった早期ガンでは術後の五年生存率も高く治療も期待できるが、既に転移してしまった進行ガンでは多くは数年以内に再発し、死と直面する恐ろしい病気に変身する。それ故、しばしば手術に他の療法が併用されて用いられているが、治療成績はガン・イコール・死というイメージを払拭するには程遠く、今日に至るも解決の曙光を見ないのが実情である。

## 血液の力

反面、そもそもガンそのものにならない人がある。進行ガンで絶望的と思われていたのに、医師の常識に反して、ガンを克服してしまった人がある。これは何故なのか。

最近、健康な人の血液にはガン細胞を溶かす力があるが、ガン患者の血液にはない(フロインド・カメネル癌反応: Freund-Kamener's cancer reaction.)

ことが判明した。つまり各人の血液の力が、ガンになるかならないかを左右し、いわゆるガンの自然治癒にも関係する、というのである。この事実は、ガンの治療法には直接ガンを攻撃する方法だけでなく、間接的にガンに対する自己防衛機能、言い換えれば抵抗力を体につけてガン細胞を自然に解消する方法もあることを示している。そうすると前に述べたガンにかからない人とは、ガンにかかったが知らぬ間に治ってしまった人なのかも知れないのである。

## ガンの免疫療法に関する研究

国立ガンセンターでは、キノ

コから抽出した多糖類をガンに移植した二十日鼠に投与した結果、ガンの成長は次第に止まり、

三週間目には十四匹中七匹で、五週間目には九匹でガン細胞が消失したこと、また予防的にガン移植前に投与しても抗ガン効果が得られたことから、これらの

## ガンにも免疫

宇都宮 義真

胞を攻撃する免疫機構が作動すると報告している。

## サナモアの治験例

進行ガンが不治の病として扱われていることはご存じの通りだが、死を宣告された進行ガンの患者が、サナモアの照射で疼痛を忘れたようになり、半年乃至数年間以上生き延びた例はよく経験する。

現在、岡山県吉備町に九十五歳で健在であるN女史も、大戦中に岡山医大病院で手遅れの直腸ガンと診断され、手術もできず、やむなくサナモア照射を試みた人である。果たしてガンが治ったのかどうかは分からないが、とにかくその後三十余年間元気に暮らしておられる。

ガンの免疫療法の研究は緒に付いたばかりで、評価するにはもう少し待たなければならぬが、将来的にはガンの主要な治療法の一つになるものと思われる。而して、これまでにサナモアで経験したガンに対する治療効果の一端でも解明されることを期待したい。

「健康と光線」

昭和40年11月5日発行

「ガンにも免疫」を引用した。



## 頸肩腕症候群とは

頸肩腕症候群とは、読んで字のごとく、頸や肩や腕に凝りや痛みやしびれなどの症状を表す病気です。この病気の病因としては、キーパンチャーやタイピストの職業病として経験する筋肉の過労によるもの、加齢に伴う頸椎や椎間板軟骨の老化に伴う退行性変化に起因する頸部脊椎症（変形性脊椎症ともいう）によるもの、腕神経叢から出る神経の走行経路で骨や筋肉が神経や血管を圧迫する胸郭出口症候群によるものなどがあります。

以下、光線療法を行った2症例を呈示し、その治療効果について考察します。

### 症例

#### 「症例1」

#### 胸郭出口症候群の疑い

**患者** 48歳 男性 医師  
**起始経過** 昭和59年頃から、ゴルフをした後に右手にしびれを伴う痛みのあることに気付いていたが、外に症状もなかったため、そのまま放置した。しかしそれからも徐々に症状は進行し、昭和61年頃からは、しびれや痛みを両上肢に認めるようになり、

日常の診療業務にも差し支えるようになったため、昭和62年3月に整形外科を受診した。そこでの頸部の画像診断では異常がなく、胸郭出口症候群の疑いと診断され、服薬、超短波療法などで様子を見ることになった。

しかしその頃から、腕や胸部の筋萎縮が目立つようになり、そのため他の重篤な神経系疾患を心配して病院を変えては専門医への受診を繰り返したが、精密検査をしても病名の確定に至らず、また胸部

出口症候群としても圧迫部位が特定できないため、手術の適応にはならないと言われた。それから両上肢の症状は増悪し続け、耐え難い痛みのある時には休診にして過ごすしかなかった。

平成2年9月に、人を介して光線療法について相談を受けたが、両上肢とも常時びりびりとしたしびれ感があり、指先を軽く叩いても痛みが走り、胸部から上腕部にかけて著明な筋萎縮を認めた。

なお学生時代にはスポーツを好み、人並み以上の筋肉を自慢していたそうである。

## 頸肩腕症候群の

## 光線療法

サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

**治療経過** 光線療法を始めるに際し、基本となる全身照射に加え、神経や血管が圧迫されている可能性のある腕神経叢から出る神経や神経に平行して走る血管の経路に添って、頸部から腕部に時間の許す限り照射することを約束して貰い経過を見ることにした。

カーボンは主として全光線をほぼ均等に放射するAカーボンと相対的に赤外線を多量に放射するBカーボンを組み合わせ

て使用し、照射部位ならびに照射時間は、基本照射（足裏、膝腹、腰、背に各10分程度）に加え、頸の左右および後方、左右の鎖骨部から肩関節、左右の肩甲骨部から肩関節、左右の腋の下、左右の上腕、前腕、手掌、手背などに各10分ないしそれ以上照射するように話した。なお照射時間が長くなるため、二台の治療器を用いることにした。

治療を始めて数か月間は、温かくて気持ちが良い程度の効果

しかなかったが、平成3年になって自覚的に症状が軽快し始め、已むを得ずに休診にする回数も減った。なお同年春にそれまで止めていたゴルフをこわごわ再開したが、却って病状に好影響があり自信になった、といった。それからも症状に一進一退はあったが、平成5年頃からは休診することもなくなり、それからはほぼ順調に経過している。

**現在**、診療には差し支えない程度のごく軽い痛みやしびれを感じることがあるが、筋萎縮は改善しつつあり、これまでにない状態と満足している。

#### 「症例2」

#### 頸部脊椎症

**患者** 55歳 女性  
**起始経過** 50歳を

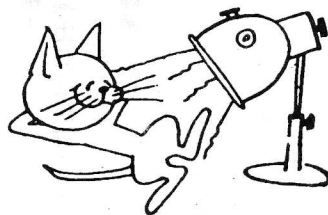
的に照射するように指示した。治療を始めてから半年間は、光線療法をするとしびれや痛みを忘れたようになるが、数日後にはまた症状が出る状態を繰り返していたが、徐々に改善していることを実感できたと言う。その後の半年間は、普通の日常生活では忘れるようになったが、過労時などには再発するといった。しかし一年を経過する頃から殆ど症状を訴えなくなった。

本例は治療を始めてから4年を経過したが、今も再発を防止するため光線療法を続けている。

### 考察

頸肩腕症候群で見られる症状は、神経が圧迫されたり血管が圧迫されて血液の流れが滞ることによって生じますので、光線療法によって筋肉の凝りをほぐして圧迫をとり、血液の流れを良くすることは何よりの治療になります。またビタミンDには骨の粗鬆化を防ぐ作用や、圧迫によって神経が変性を起こしているような場合には、神経の再生を促し機能を回復させる作用など、その場かぎりの症状の改善だけでなく、根本から治癒機転を促し再発を防ぐ上で有用な作用があります。したがって、病状が改善しても光線照射は続けることが大切です。





## — 治 験 例 報 告 —

### ☆脳梗塞

症例 75歳 男性 自営業

症状 友人と飲酒中、右半身が麻痺し、救急車で病院に運ばれた。既に右側の手足は思うように動かず、話すのも不自由だったが、意識ははっきりしていた。CTスキャンの検査の結果、脳梗塞と診断され緊急入院した。

入院中にリハビリを受けたが、気が進まないようであった。足を引きずるようにして歩けるようになったが、その頃から、もう良くなったから帰る、といふときがなくなり、それから余り回復しなかったが、四ヶ月後に退院した。

退院して一週間余りしてから、親戚の強い勧めがあって、娘の介添えで来所したが、落ち着かない様子で、話し掛けても顔を

向けない。右手は動きまわすかと尋ねると、動く、という。動かして、という左手を動かす。右手を動かして、という、さつきまで動いていた、という。

療法経過 有めるようにして、A Bカーボンで足裏を照射する。10分もしないうちに体をもどもぞ動かしてじっとしていない。私は何処も悪くないのだから帰る、と言いつける。付き添いに、一週間の間、A Bカーボンで足裏、足首、膝に各10分、本人が嫌がるなら寝込んだ時にでも照射するよう指示する。五日後に電話があり、昨日から静かにか

けさせる、という。一兩日は同じようにして、その後、腰、背、腹、頭部と少しずつ範囲を広げてゆくよう指示する。しかし頭部の照射は、気分が悪くなる、という。最初は嫌がった。

一ヶ月後には後頭部の外に側頭部や顔面に照射しても嫌がら

### ☆C型肝炎

症例 53歳 女性

症状 慢性の咳、易疲労感、食欲不振、不眠、耳鳴り、めまい、冷感性などさまざまな症状があり、病院ではC型肝炎と診断されて悩んでいた折りに、光線療法を勧められ、本年の一月に来院した。

療法経過 カーボンはA A、A B、B Dなどを組み合わせ二灯

なくなり、A DまたはB Dでそれぞれ10分ないし20分照射、足裏、足首、膝、腹、腰、背はA Bで各10分照射するようにした。

二ヶ月過ぎた頃から、右手で箸を使って食べ物に運んだり、湯のみ茶碗を持ち上げるようになり、右の手足の冷えも次第に軽くなった。三ヶ月後には一人でトイレで用が足せるようになった。四ヶ月余りして、足の運びは幾分寛大なくよることも

あるが、近くのショッピングストアに行くのを楽しみにするようになり、久振りに家族の笑い声が聞かれるようになった。なおリハビリにも意欲的になり、現在は週に一度だがリハビリセンターに行き、回復への経過は順調である。

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告  
TEL078-1331-1358

### ☆肺炎の疑い

症例 69歳 女性

症状 友人から瘦せたといわれ、微熱もあったので、病院で検査を受けた結果、右の下肺野に異常陰影を認めた。そのため精密検査に平行して抗生物質の投与を受けたが、本例は以前から光

月には、顔色も良くなり、耳鳴り、めまいもなくなった。なお二月と五月に病院で調べた肝機能検査(GOT、GPTなど)の結果は良くなっていった、と喜んでいた。

現在週に三回の当院での治療に加え、自宅でも治療を続けている。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告  
TEL044-721-5067

### サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」とも受用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアA B C Dと効果が同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついてます)

東京光線療法研究所

線療法法の愛好者で治療法を相談してきた。

療法経過 カーボンは差し当たりB C、B Dを交互に使い、それからA D、A B、A Aから体験に照らして自由に選択し、下腹部、足裏、足首、膝、後頭部、背、腰、腹、喉、患部(右肺野)に気持ちの良い間、熱く感じるまで照射するように指示した。

その二ヶ月後に、「お陰様で、病院の検査では肺の異常な陰もなくなり、癌の心配もないとのことで安心しました。光線をかいたせいで体の調子がとても良いので、これからは毎日照射します。またお世話になると思いますが、本当に有難うございました」とお礼の電話があった。

春日市 育美健康光線療研  
前田 ミサ氏報告  
TEL092-581-2039



## 抗原に反応する仕組み

前回、免疫系は体内にあるものが自己か非自己かを判別する、と述べましたが、これに関係する抗原を主要組織適合複合抗原(MHC)と呼びます。免疫系

## 免疫応答を調整する光線療法 その2

## ——免疫に関わる機構の多様性——

サナモア光線協会 医学博士 宇都宮 光明

この無数の抗体産生機構を如何にして説明するか、この難問に答える唯一の学説とされているのが、バーネットが一九五七

つくる機構があることを示しています。

は自己のMHCと異なるものを非自己、すなわち抗原として認識し、この抗原と厳密に1対1の対応性を有する抗体をつくります。この免疫の特異性を特徴づける反応は、これまでに会ったことがない抗原も含めて無数にある抗原に対して、無数の抗体をつくる機構があることを示しています。

年に提唱したクローン選択説です。クローンは、一個の免疫適格細胞が抗原刺激によって分裂増殖した全く同じ細胞の集団のことですが、次にクローン選択説の要点を記しておきます。

(1) 胎生期に無数の抗原に対して特異的に反応する抗体を作る潜在能力のある免疫適格細胞(リンパ球)のクローンが用意される。

(2) 抗原に遭遇すると一つの免疫適格細胞が反応してクローンを形成し、その抗原に対する抗体を産生する(これを1細胞1抗体説という)。

(3) 再度の抗原の侵襲に対し、より速やかにより効果的に反応する(ブースター効果という)のは、いったん抗原刺激で増殖したクローンが記憶細胞として働くためである。

(4) 自己のMHCを抗原として認識しないのは、胎生期に自己のMHCと反応するクローンが除去されるからで、これを禁止クローンと呼ぶ。(自己免疫疾患はこの機構の障害で起る。)

端的にいうと、この説には今でも多くの論理的飛躍がありま

すが、無数の抗原に対し無数の特異性抗体をつくる機構が私た

ちにあることは確かです。

## ビタミンDと免疫系

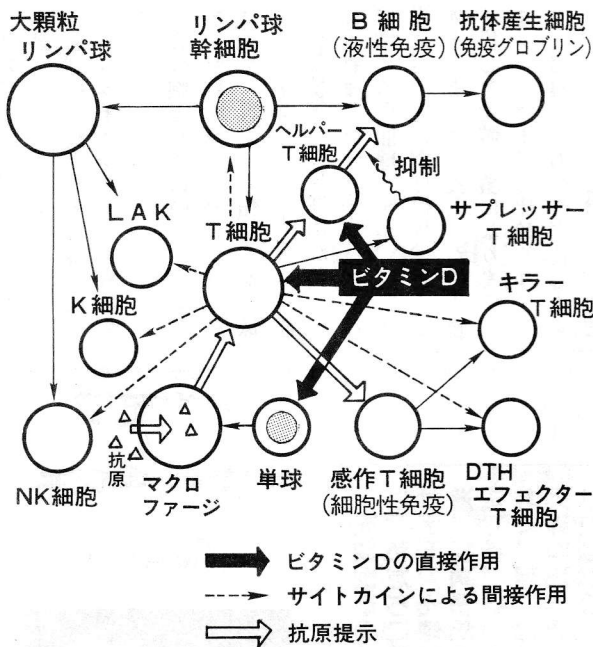
光線で生成されるビタミンDの直接作用とビタミンDが産生を促すサイトカインが関係する間接作用について、免疫を担当する細胞の分化と相互作用の概要と合せて図に示しました。

図に示した免疫適格細胞はそれぞれに実に複雑な正と負の制御機構があって、車の両輪のようにバランスよくホメオスタシス(恒常性)を保ちますが、

その詳細については未だ不明の点が多々あります。なおビタミンDによって吸収が規制されるカルシウムの不足は、骨吸収を促して細胞内のカルシウム濃度を上昇させ、その機能を阻害しますので、免疫機能を正常に作動させる上で著しい不利益をもたらします。

特異的な免疫応答に関わる免疫系

免疫に関する知識が格段に深まったのは、リンパ球が種々の



免疫系に及ぼすビタミンDとサイトカインの影響

異なる機能を持つ細胞群、すなわちT細胞、B細胞、そのいずれにも属さない大顆粒リンパ球(ナール細胞ともいう)に大別できることが判明してからです。

このうち特異的な免疫応答に関わる免疫系には、B細胞から分化したヘルパーT細胞と抑制性T細胞、同じくT細胞から分化するキラーT細胞(細胞傷害型T細胞)とDTHエフェクターT細胞(サイトカイン産生型T細胞)、大顆粒リンパ球に属し抗体と結合した標的細胞を傷害するK細胞とT細胞が産生するインターロイキン2によって腫瘍細胞を傷害するようになるLAKなどがあ

抗体産生細胞が産生する免疫グロブリンはIgA、IgD、IgE、IgG、IgMの五つのクラスに大別されますが、その働きはさまざまです。IgAは粘膜上に分泌され(分泌型IgA)、侵入しようとする微生物や異物を阻止する局所免疫に有用で、また母乳に比較的高濃度に含まれるため母乳栄養児



(5面より続く)

の抵抗力を増します。Igは毒素やウイルスと結合して無毒化する中和抗体として、あるいは食細胞の食作用促進因子(オプソニンという)として働きますが、胎盤を通過できる唯一の免疫グロブリンでもあり、母親から乳児に受け継がれ、感染防御に役立っています。Igは最も早く胎生期から発達しており最初に出現する抗体ですが、特に抗原を溶かす補体を活性化する効率が高く、溶菌や溶血に重要な働きをしています。Igは次号で述べる即時型アレルギーに関係します。Igの働きはよく分かっておりま

ん。  
キラーT細胞(細胞傷害型T細胞)はMHCの異なる移植臓器を拒絶する拒否反応の主役として発見されましたが、ガン細胞のような変異細胞やウイルス感染細胞を標的にして破壊、排除する重要な役を担っています。

DTHEフェクターT細胞(サイトカイン産生型T細胞)は抗原刺激によってクローンが拡大し、さまざまな免疫調節作用を持つサイトカインを産生します。サイトカインとは細胞が産生する液性の生理活性物質、と定義され、インターロイキンや

インターフェロンなど五十種以上知られていますが、マクロファージの抗ウイルス作用や抗腫瘍作用を増強したり、炎症反応(遅延型過敏反応)に関与したり、非特異的に作用します。そのうちT細胞が産生するインターロイキン2とγインターフェロンについて記述します。インターロイキン2の多彩な生理活性の中で特に重要なのは、T細胞、B細胞、大顆粒リンパ球を増殖させ、免疫機能を高めることです。γインターフェロンには抗ウイルス作用や大顆粒リンパ球の活性を増強する作用があります。

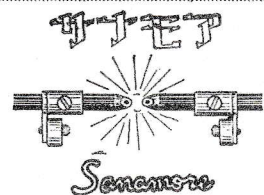
### 非特異的防御機構としての免疫系

今世紀の前半の免疫学の主なテーマは、予防注射に代表される抗原抗体反応の特異性についての研究でしたが、最近になって抗体の関与なしに抗原を攻撃し破壊消滅させる仕組みが注目されています。

ペニシリンを発見したフレミングが、それ以前に発見し顕著な殺菌因子と呼んだのがリゾチームという酵素です。この酵素には溶菌作用がありますが、粘液や涙や唾液や血液や組織や食細胞の顆粒(リソソームまたは

消化顆粒)内であって、速やかに出動し外敵から身を守ります。なお同様な働きをする酵素にラクトペルオキシダーゼがあります。

食細胞として以前から知られていた好中球とマクロファージに加え、最近、大顆粒リンパ球の中のナチュラルキラー細胞(NK細胞)の食作用が明らかにされました。好中球は感染症で増える白血球ですが、感染病巣に真っ先に駆け付け、自らの死と引きかえに侵入した微生物を殺した死骸が膿になります。マクロファージは比較的ゆっくりと貪食したものを消化しますが、自ら死ぬことはなく、処理しきれない抗原情報をT細胞に伝えます。NK細胞はこれまでに一度も出会ったことがないものに對しても、抗原との反応という面倒な手続きは省いて、いきなり標的細胞に的をしぼって破壊消滅させます。特に主としてガン細胞のように異常に早い速度で分裂する変異細胞や、ウイルスに感染した細胞を見付けて攻撃します。したがって、ガンやウイルス感染症のような難治な疾患群の治療に新天地をひらく自然免疫に関する新しい発見として、現在、免疫学者の興味を一身に集めています。



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないがなくてはならない紫外線や赤外線を目的に感じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 3793-5281  
三七一-五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)